さくら新聞

発行者：ＮＰＯ法人
下関深坂さくら友の会
下関市安岡町1-8-3
TEL:083-258-0143
FAX:083-258-5910
http://yasuokac.sakura.ne.jp/sakura
Eメール：misaka.sakura@arrow.ocn.ne.jp

さくら友の会設立十周年に当たって

副理事長
常岡梅男

早いもので、「さくら友の会」は任意団体「下関深坂さくら友の会」設立から10年目に、「ＮＰＯ法人下関深坂さくら友の会」認証から7年目に入りました。この節目にあたり皆さまと喜びを共にしたいと思います。

「さくら友の会」設立の母体である響灘ライオンズクラブは、設立後も惜しみなく支援と協力をいただき深く感謝申し上げます。

設立以来、深坂の森を下関の憩いの場にするために約１６００本の桜の木の手入れをすると共にもみじ谷の整備、シャクナゲの小径、エビネラン群生地の創生等も行い、より美しい場所つくりに努めて参りました。

その過程で、喜びと努力を共にしてきた5人の友の会会員との別れがあったことを思い起こします。城戸哲郎、井藤盛治、庄子好光、枝村　勉、伊東治機の各氏のご冥福を心からお祈り申し上げます。故人の遺志を引き継がれて、ご家族の皆様が、その後も友の会との係わりをもち続け種々協力をいただいておりますこと会員一同喜んで居ります。心より感謝申し上げます。

これからのさくら友の会をより発展させ継続させるためには、若い方々の参加が切望されます。

さくら友の会は加入期間の長い人、短い人に関係なく、やる気のある人が積極的に行動して頂ける会です。誰でも自由に意見を言える会です。押さえつけや、強制等もありませんので、ご自由に参加してください。友の会の会員は、元サラリーマン（銀行員、会社員、船員、公務員、教員等々）や自営業の方、政治家、医師、園芸の専門の方や多くの主婦の方で構成されています。どうか安心してどなたでも参加してください。

日本には６５歳以上の方が３２９６万人もおられるそうです。経験豊かな方々、元気なシニアの力と知恵を貸してください。

２ヶ月に１回の定例作業（９：００～１２：００）と草刈り等の臨時作業や、ゴミ拾い、施肥や、天狗巣病切除等を年間計画にそって整然と行っています。これからのさくら友の会としては幸せを生み出す日々の種まきをしたいと思っています。人が見ていなくても、いいじゃない！ヒマワリの種をまけばヒマワリの花が咲きます。アサガオの種をまけばアサガオの花が咲きます。まいた種に応じて結果が現れます。桜の木の手入れも同じです。１年間を通して愛情を持って、手入れを維持することにより、４月に満開の花を咲かせるのです。手入れの力の入れようによって、結果が現れます。２ヶ月に１回皆さまが集まり、楽しく、おいしい空気を腹いっぱいに吸って、体を動かし、良い汗をかきましょう。多くの人との対話より楽しく熟年の力を発揮し深坂の森が市民の憩いの場として喜んでもらえる様に力を合わせて頑張りましょう。心より皆様の参加をお待ちしています。

5月10日　定期総会

爽やかな緑に包まれた深坂森の家で第10回定期総会が開かれました。参加者は議事に先立って４月28日に亡くなられた故伊東治機（はるき）氏を忍び黙祷を捧げた。

総会は総会資料に基づき滞りなく進行した。総会後は主として枯枝、鳥居など集める作業を行った。

新年度役員

全員が再任されました。

理事長	福富　征男	
副理事長	常岡　梅男	
専務理事	事務局長	西川　浩子
以下理事		
広報部会長		野口　周三
維持管理部会長		江原　寛治
会員交流部会長		和泉　昭夫
		福田　幸博
		浅野　史也
		道坂　優
		平野　正
		松岡　康成
		城戸富美子
		西岡　信夫
監事		山田　一之
監事		

設立10年記念事業

総会で記念事業を行うことが決定されたが、詳細は理事会に一任された。理事会では、左のごとき決定をして準備中である。

✧　記念パーティの実施
✧　ビデオの作成
✧　「10年史」の発行
✧　記念植樹

記念パーティは平成28年2月21日に行うことを決めた。

ビデオと10年史は事務局と広報部が担当する。

記念植樹と植樹場所は選定し、市から許可も得た。植樹に添える木碑については、和泉昭夫氏が引き受けている。

自由投稿

下関深坂さくら友の会は設立10年になり、高齢化が進んでいますが、このボランティア活動を是非続けて行ってほしいという願いを持っています。次世代に引き継ぐためには活動を広く知っていただくことが大切です。「10年史」はその重要な役割をもつものとなると思います。

会員に限らず、深坂の森に関すること、桜友の会に関する写真や、感想文など寄稿していただくと、より一層充実したものになると思います。皆さまのご協力をお願いします。

桜四方山

さくら　さくらやよいの空は
見わたす限り
かすみか雲か
匂いぞ出ずる
いざや　いざや
見にゆかん

独りでに口ずさまれる曲は、穏やかで、和やかで、どこか物悲しく、自然に涙ぐまれるほど美しい。清らかな青空のもと、はらはらと散る桜の下で、着物姿の女性が優雅に舞を舞う光景が思い浮かぶ。この曲は日本古謡と表記される場合が多いが、実際は幕末、江戸で子供用の箏の手ほどき曲として作られたそうである。（作者不明）。

日本の代表的な歌として国際的な場面で歌われることも多く、ＮＨＫの海外放送の導入部にも使われている。この曲を日本人の誰もが日本的と感じ、これが日本ですよと言うことに異論はないだろう。このような曲が生まれてくる背景には、清らかな美しさ、穏やかな和やかさを愛する心が、共有されているからではないだろうか。日本人は昔から桜を愛してきた。そして桜を愛することによって、日本人の感性もますます桜にぴったしに養われてきたのだろう。

4月5日「さくらえ（桜会）」

倉本真由美

今回初めて「さくらえ」に参加させていただきました。深坂をさくらの木でいっぱいに埋め尽くすプロジェクトが始まって17年位かな。平成12年に植えた母のさくらの苗木も、今は直径15cm位に育ち毎年花をつけ楽しませてくれています。

今年は前日の大雨で「さくらえ」が出来るかと心配でしたが、霧のかかった朝もやの中～満開のソメイヨシノ、鮮やかなピンクの枝垂れ桜、山桜がぼんやりと映し出された神秘的な情景にこころが和みました。あいにくの雨模様に、屋外でのイベントがかなわず、すべて「森の家」の中になりましたが、ボーイスカウトの子供らや歩こう会の方々が来られ、マジックショウ、ボール蹴り、餅つき、その他に、たくさんの人が参加して楽しい一日でした。たんぽぽにニホンたんぽぽとセイヨウタンポポがあることを教えていただき、学び、ふれあい、笑顔がいっぱいの充実した一日でした。美しい深坂に、ますます花と笑顔が溢れることを願って乾杯！

4月12、13日　さくら研修旅行

会員交流部会長　和泉昭夫

4月12日、新幹線は小倉駅から中継地の名古屋駅をめざして参加者の笑顔と歓声を載せて発車した。快適な乗り心地と旅を楽しむウキウキ感であっという間に名古屋駅到着。

旗を持って先導する女性。あまりしゃべらなそうなガイドについて行き大型観光バスに乗り込んだ。長距離のバス移動が始まる。しばらくしてからガイドがマイクを握りしゃべり始めた途端、「あっと驚く為五郎」ひらり豹変！プロのお笑い芸人顔負けの名ガイドさん。まるで漫談の連続、休む間もない笑いの攻撃の雨あられ、抱腹絶倒の連続パンチでクリンチも出来ず、皆ノックダウンさせられるのではないかと耐えるのに必死であった。

高遠城址公園は人・人・人・・・・

そんな中、車窓からは、白い帽子をかぶった名峰が競うように次々とお披露目、八ヶ岳連峰、中央アルプスの木曽駒ヶ岳、南アルプスの北岳、間ノ岳、仙丈岳、山好きの小生にはいやが上にも登山意欲を掻き立てられる。この夏は「中二の孫、健太」と伊吹山、木曽駒ヶ岳に登る予定です。

そんなこんなで長距離のバス移動も退屈せずに、この日のメイン「高遠城址公園」へは午後四時過ぎの到着でした。ここの公園に入るなり驚嘆したのは樹齢百三十年を超える約千五百本の大木に、小ぶりで赤みを帯びた可憐な花弁のコヒガンザクラが今や盛りに空をも隠してしまうほどに咲き誇り、さながら「ピンク桜の樹林」で、まさにキャッチフレーズ通りで思わず声を上げ「天下第一」と叫びたくなる程の感動を味わいました。しばし感慨の余韻に浸りながら今宵の宿「八ヶ岳ロイヤルホテル」に入ったのは暮れの七時近くでした。学んだことは古くより桜を愛し、代々多くの人達が志と思いを引き継ぎ絶えることなく保存の為、努力を続けているからだと思いました。

旅行二日目は朝からあいにくの雨模様であったが、月形半平太よろしく「春雨じゃ濡れてまいろう」の心境で雨また楽しと皆笑顔で出発。まずは日本三大桜の一つ武川・実相寺の「山高神代桜」を訪ねた。推定樹齢二千年で日本最古の桜と言われており、たくさんの支え木に助けられ今でも毎年花を咲かせるその姿に心を打たれました。

次いで飯田市に移動し「桜守り」の案内で地域に数多く散在する名桜の中からこの日の一番見ごろのところを訪れました。一つ目は、これから新たに名所に加える一本桜、二つ目は同じく瑠璃寺の一本桜、どちらも樹齢を重ねた見事なものでそれぞれの管理の良さに感心した。

終わりに今回の旅で知らされたのは、樹齢が長く名桜と呼ばれるものが甲乙つけがたく数多く存在し、立派に維持管理されていることと地形、地積にあった植栽をした先人たちの英知に改めて尊崇の気持ちを捧げたいと思います。